観聚和泉だより
観聚学舎　狛江市立狛江第一小学校
７月末号
令和５年７月２０日発行

戦後78年に想う

統括校長 川﨑 貴志

昭和 20 年 8 月 15 日、戦争は終わったけれど、これからやってくるアメリカ兵への恐怖と極度の食糧不足で、疎開する者がかなりいた。狛江国民学校（現在の一小）でも二人の教員が退職し郷里に帰った。（中略）深刻な物不足から子供の使う学用品さえ手に入らず、みな配給制で、地方事務所の指示で教員が（府中、吉祥寺等に）取りに行っては児童に配っていた。

昭和 20 年 5 月 25 日の空襲で校舎が焼けた後、児童は神社やお寺の境内で学習していたが、終戦後は生産を止められた湘南製作所、国際電気、玉川医療器など軍需工場の建物を借りて教室にした。天井板のない建物の内部を仕切って手頃な広さにしたが屋根裏までは仕切れず、また、いたずら盛りの子供たちだから仕切板には穴が開き、隣の先生の大きな声が聞こえたり、のぞきっこをしたり、手を出したりして楽しんだ。

戦争による物不足から日常着る服がない。それを洗う石鹸もないから洗濯ができない。不潔な生活の中で虱が大発生した。（中略）全校児童を校庭に整列させて DDT を頭の上から衣服の中まで散布した。新校舎の建設は、昭和 21 年 5 月から始まったが、その年度中にできたのは 5 教室だけ。次の年に9教室、全教室が完成し、全校児童が一緒に勉強できるようになったのは、昭和 23 年5月であった。

しかし心すさみ、極端な物不足から窓ガラスの盗難がひどかった。一晩で 59 枚、84 枚、32 枚、53 枚など大量にとられることもあったので、窓ガラス一枚一枚にペンキや釘で学校名を記入して盗難防止に努めた。（以下略）

（狛江・今はむかし 上巻 142「狛江国民学校の戦後」 井上孝 より・R3 学校だより夏休み直前号再掲）

今回、改めて 2 年前の学校だよりを再掲しました。平和な日常生活を営んでいけることは、いつの時代も世界の人々の当たり前の願いです。世界中の戦争・紛争が一刻も早く終わることを願ってやみません。

さて、明日から長い夏休みが始まります。様々なことにチャレンジし、この夏しか作れない、思い出深い夏休みを過ごして欲しいと思います。二学期の始業式には、一回り成長した子供たちに会えることを楽しみにしています。